うつ病に対する潜在的偏見は低減可能か

— カウンター・ステレオタイピングを用いたパイロットスタディ —

○榎原 潤^{1,2}⁽¹⁾ 東京大学大学院教育学研究科 ⁽²⁾ 日本学術振興会)

キーワード: うつ病, 偏見, 潜在連合テスト

Can implicit prejudice against depression be reduced by promoting counterstereotypes? Results from a pilot study

Jun KASHIHARA^{1,2}⁽¹⁾ Graduate School of Education, The University of Tokyo ⁽²⁾ Japan Society for the Promotion of Science)

Key Words: depression, prejudice, Implicit Association Test

目 的

うつ病やうつ病罹患者に対する偏見は、罹患者の援助要請を妨げる要因と考えられている。うつ病に対する偏見を検討する際、近年では、質問紙などで表明される顕在的偏見とは別に、反応時間課題などに表れる潜在的偏見が着目されるようになっている。例えば、Kashihara (2015) は、簡略版潜在連合テスト (Sriram & Greenwald, 2009) を用いた反復測定デザインの実験を実施し、うつ病の症状や原因に関する知識啓発を行っても潜在的偏見が低減しないことを示している。

現在のところ、潜在尺度を用いてうつ病に対する偏見を検討した研究の数は限られており、うつ病に対する潜在的偏見を低減する手段を示した研究は存在しない。うつ病に対する潜在的偏見が低減可能な性質のものなのか否かという点に関しては、実証的な検討がなされていないのが現状といえる。

そこで、本研究では女性に対する潜在的偏見を低減する方法を示した Blair, Ma, & Lenton (2001) の手続きを参照し、ステレオタイプと反する事例 (カウンター・ステレオタイプ) を想像させる手続きを用いた試験的な実験を行うこととした。少人数のサンプルに基づくパイロットスタディを実施し、うつ病に対する潜在的偏見が低減可能かを検討するための展望を得ることが本研究の目的である。

方 法

実験参加者 臨床心理学・教育心理学を専攻する大学生・大学院生 22 名 (男性 5 名; 女性 17 名) が実験に参加した。平均年齢は 24.32 歳 ($SD = 3.41$) であった。

測定尺度 「うつ病」に関して「暗い」「心が弱い」という評価を関連付ける傾向を測定するための潜在尺度として、簡略版潜在連合テスト (Sriram & Greenwald, 2009) を用いた。刺激語には、Kashihara (2014, 2015) をもとに 24 語を選定して用いた。

実験手続き Moore & Moore (2013) の手続きを用い、22 名の実験参加者を、群間でフェイス項目のバランスが取れるよう 2 群に配置した。「実験群 ($n = 12$)」においては、「明るいうつ病患者」「心が強いうつ病患者」を想像して記述する課題を 5 分間ずつ実施した。「対照群 ($n = 10$)」においては、ポジティブ感情を喚起するための手続きとして、「ハワイでのバカンス」「理想の休日の過ごし方」を想像して記述する課題を 5 分間ずつ実施した。各群において、課題の実施前と実施後の 2 時点で、簡略版潜在連合テストを実施した。

結 果

各群で時点ごとに、簡略版潜在連合テストの値 (D 値) を算出した (Figure 1)。「うつ病」と「暗い」の関連付けに関しては、実験群において D 値が有意に減少しなかったことが確認された ($t(11) = 2.12, p = .058, d = 1.28$)。また、実験群と対照群の間で D 値の変化量に有意差が存在しなかったことが確認された ($t(20) = 0.43, p = .672, d = 0.18$)。「うつ病」と「心が弱い」の関連付けに関しては、実験群において D 値が有意に減少しなかったことが確認された ($t(11) = 0.15, p = .882, d = 0.09$)。ま

た、実験群と統制群の間で D 値の変化量に有意差が存在しなかったことが確認された ($t(20) = 0.20, p = .841, d = 0.09$)。

Figure 1. Ms of Brief Implicit Association Test D scores for the Gloomy belief (left panel) and the Weak belief (right panel). Standard error bars are included.

考 察

「うつ病」と「暗い」の関連付けについて、実験群での D 値の減少に関する効果量は大程度であった。このことから、本実験でサンプル数を増やせば、実験群での操作により、潜在尺度上でも有意な偏見低減効果を確認できる見込みが高いと考察した。また、実験群と対照群との比較で得られた効果量が小程度であったことから、「暗い」という偏見は感情誘導によっても変化する可能性が高いことが示唆された。「うつ病」と「心が弱い」の関連付けについては、Kashihara (2015) のサンプルと比較して事前の D 値が低く、そのために実験手続きによる変化を有効に検討できなかった可能性があると考えた。

以上の考察を踏まえ、本実験において、うつ病に対する潜在的偏見が低減しうるものなのかを検討する際には、感情誘導を伴わない統制群を追加する、事前の D 値が低い可能性のある層 (例: 臨床心理学専攻の学生) を除いてサンプリングを行う、といった工夫が求められると結論付けた。

引用文献

- Blair, I. V., Ma, J. E., & Lenton, A. P. (2001). Imagining stereotypes away: The moderation of implicit stereotypes through mental imagery. *Journal of Personality and Social Psychology*, **81**, 828-841.
- Kashihara, J. (2014). *Prototype analysis of stigmatizing attitudes toward depression: 'Gloomy' and 'Weak' as prototypes*. Poster presented at the 26th Annual Convention of Association for Psychological Science, San Francisco, USA.
- Kashihara, J. (2015). Examination of stigmatizing beliefs about depression and stigma-reduction effects of education by using implicit measures. *Psychological Reports*, **116**, 337-362.
- Moore, R. T., & Moore, S. A. (2013). Blocking for Sequential Political Experiments. *Political Analysis*, **21**, 507-523.
- Sriram, N., & Greenwald, A. G. (2009). The Brief Implicit Association Test. *Experimental Psychology*, **56**, 283-294.